

2022年7月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500hPa 高度をみると、北米北東部～ロシア西部～東シベリア付近で波列パターンとなり、ヨーロッパ西部、東シベリア西部では正偏差、西・中央シベリア付近、ベーリング海付近では負偏差となった。200hPa 風速をみると、北米東部の偏西風やユーラシア大陸の亜熱帯ジェット気流は、平年と比べて強かった。東シベリア西部では、寒帯前線ジェット気流が北に蛇行した。海面気圧をみると、北太平洋中部、ヨーロッパ西部付近で正偏差、北米北東部では負偏差となった。太平洋高気圧の日本付近への張り出しは平年と比べて弱かった。850hPa 気温をみると、ヨーロッパ西部、ロシア西部、東シベリア西部で高温偏差、ベーリング海付近では低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、アラビア半島南部～南アジア西部、インド洋赤道域の中部、インドネシア付近～西部太平洋熱帯域の北緯5度帯、日本の南海上で活発、中国南部付近、南太平洋赤道域の東経165度付近で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の前半はインドネシア付近にあり、その後太平洋～インド洋を東進したが、太平洋付近での振幅は小さかった。対流圏上層では、ユーラシア大陸上の亜熱帯ジェット気流に沿って波列パターンが見られた。太平洋熱帯域の西部～中部では、南北半球対の低気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、太平洋熱帯域の西部～中部で南北半球対の高気圧性循環偏差となった。海面気圧は、熱帯域では、太平洋中部～東

部で正偏差、南米～大西洋、北インド洋熱帯域～インドネシア付近で負偏差となった。南方振動指数は+1.1だった。

世界の天候

世界の月平均気温偏差は+0.25°C(速報値)で、1891年の統計開始以降、7月として5番目に高い値となった。7月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.70°C/100年(速報値)である。

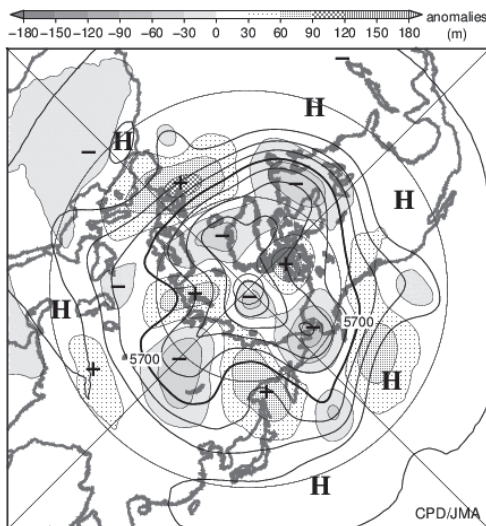
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 東シベリア南部～北日本、中国南東部～中央アジア南部、ヨーロッパ東部～北アフリカ北西部、米国南部～メキシコ、ブラジル南部～ペルー南部、メラネシア東部～ポリネシア南部で異常高温、パキスタン～オマーン北部、オーストラリア北部～中部で異常低温となった。
- インド北西部～オマーン北部、オーストラリア北東部で異常多雨、中国南部～インド北東部、ヨーロッパ東部～西部、米国南部～メキシコで異常少雨となった。

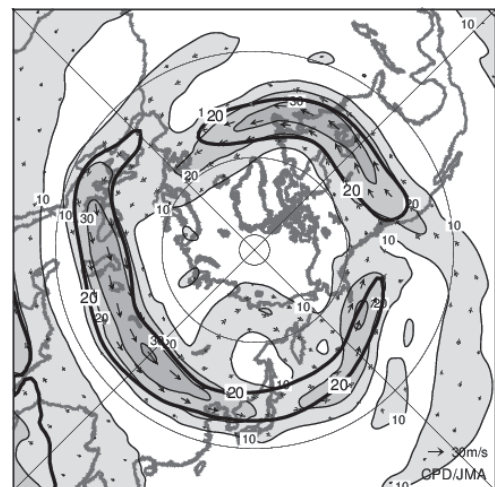
(気象庁 大気海洋部 気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

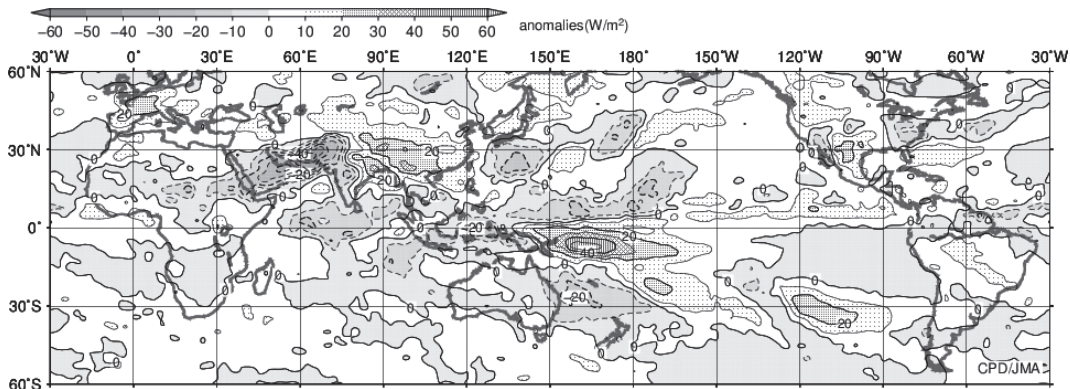
<https://www.data.jma.go.jp/cpd/diag/sokuho/index.html>



2022年7月の北半球月平均500hPa 高度及び
 平年偏差
 等値線間隔は60m。陰影は平年偏差。平年値は
 1991～2020年の平均値。

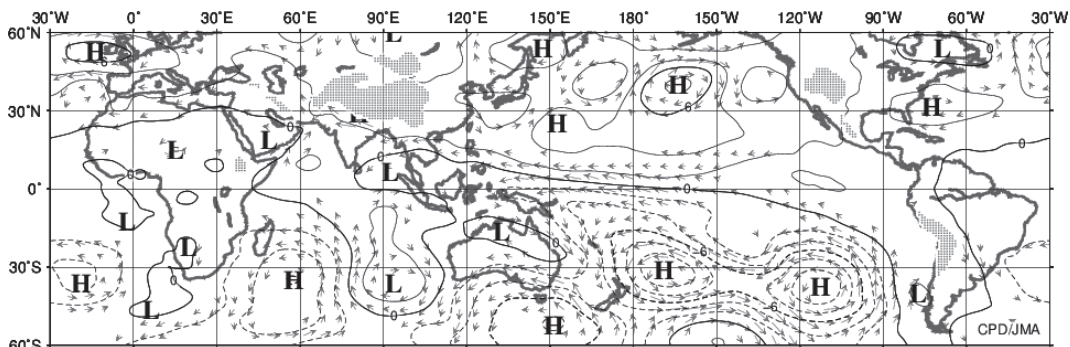


2022年7月の北半球月平均200hPa 風速及び
 風ベクトル
 等値線間隔は10m/s。太実線は平年の風速で等値
 線間隔は20m/s。平年値は1991～2020年の平均値。



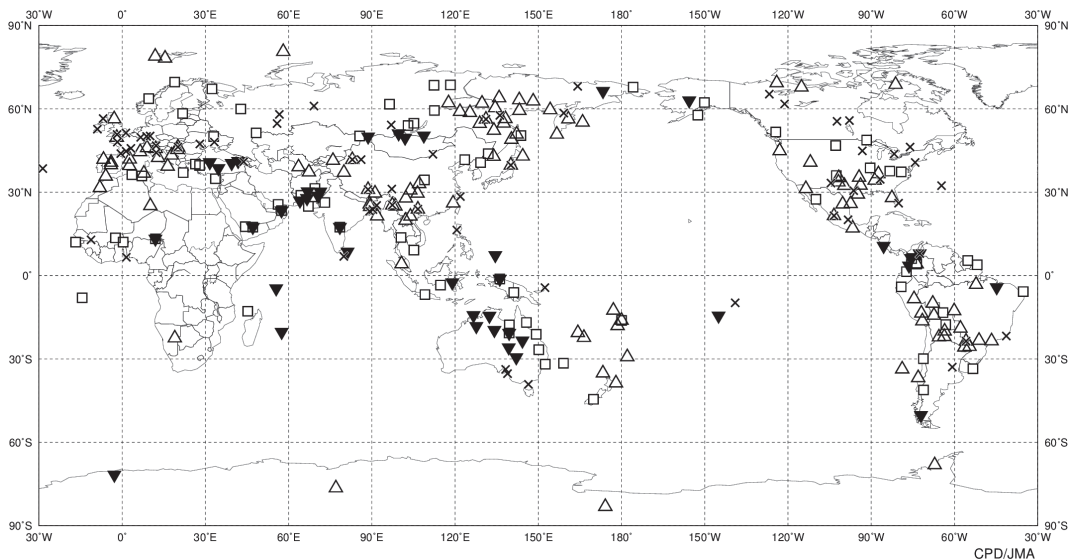
2022年7月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は 10W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1991~2020年の平均値。



2022年7月の月平均850hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1991~2020年の平均値。



2022年7月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。